

青年隊記念碑及び若獅子神社清掃奉仕、若獅子神社御霊祭、川施餓鬼法要に参加して

産業開発青年隊同窓会長 鈴木 浩明

令和8年8月9日、朝9時より、若獅子神社に集合し、若獅子神社の清掃奉仕を行いました。もうかれこれ10年以上続けている奉仕活動です。きっかけは、私が、同窓会東海ブロック会長を拝命した時、前ブロック会長の石川祐三先輩と、どのような事業を行ったらいいかという、打ち合わせによるものです。若獅子神社は、私たちの恩師である吉留先生の卒業された旧陸軍少年戦車兵学校の跡地に建立された若獅子の塔として始まり、その後、宗教法人として創設された若獅子神社として現在に至ります。吉留先生は、若獅子神社の守り人としてご自身の生涯をかけて、奉仕をされました。その姿を見て、何か少しでもお手伝いできないだろうかと思い、吉留先生が亡くなられたのち、東海ブロックの事業として、始めました。今年度は、石川祐三先輩、渡辺喜久東海ブロック会長、そして私の3名の参加となりました。毎年酷暑の中ではありますが、8月15日の終戦記念日に合わせて行われる御霊祭に間に合うように清掃奉仕を実施しました。石川祐三先輩は、一般大学を卒業後、海外雄飛を目指して、青年隊に入隊されました。そして、昭和45年度高等科建設施工管理課程を卒業されました。派遣実践では、小笠原返還による小笠原派遣実践に参加されました。卒業後、国際協力事業団の青年海外協力隊に参加され、マレーシアに派遣されました。その後、青年隊の海外課程創設時には、マレーシア派遣実践の先駆けとして隊員たちに指導を行いました。また、指導員として在籍中に国際協力事業団の専門家として、農業土木の技術援助として指導を行うため、ペルーに派遣されました。現在は、富士宮市上井出に在住されています。渡辺喜久東海ブロック会長は、昭和63年度海外課程卒業、現在は、富士宮市で土木建材店の社長として、また消防団の幹部として活躍されています。

若獅子神社を清掃したのち、朝霧高原の富士教育訓練センターに向かい、青年隊記念碑周辺の清掃奉仕を実施しました。産業開発青年隊創設50周年を記念して建立した、記念碑です。長澤先生が青年教育に傾注し、命を懸けて生涯続けられた、産業開発青年隊事業を記念して建立されました。同窓会の最大の事業であったと思います。

令和8年8月15日正午より若獅子神社にて、先の大戦で亡くなられた英霊に対しての黙とうを合図に御霊祭が開始されました。浅間大社福井神職により厳かに祭祀が始まりました。サイパンより帰還した戦車が、赤茶けた姿で、祭祀を見守っているような気がしました。サイパンより2基の戦車が返還され、一台が靖国神社できれいな姿で展示されています。そしてもう一台は、若獅子神社に傷だらけ、錆だらけの姿で鎮座しています。これは、生きて、日本に戻ってこられた、少年戦車兵学校の方々の想いとして、その激しい銃砲の傷をそのまま残し、朽ち果てる姿をもってして、戦争のむなしさを後世に伝えるためにこのような展示方法としたとお聞きしています。若獅子神社は、生きて帰ってこられた少年戦車兵学校の卒業生によって創設された神社ですが、氏子である卒業生が高齢化し、さらには多くの方々が、お亡くなりになり、後継者として活動する方が、数少ない

という現状があります。富士宮市にとって、大変貴重な施設であり、維持管理や、祭祀をいつまでも続けていかなければならないと思います。多くの方々に、関心を持っていただき、世界平和に向けて情報発信をする大切な拠点となることを切に感じています。多くの方々の関心と、ご協力をお願いしたいと思います。

翌、8月16日には、柚野興徳寺で川施餓鬼法要、並びに、松明行列を行い、川で亡くなった方々の成仏を願い、多くの方々に参列していただきました。住職の松永泰然先輩は昭和45年度普通科を修了されました。海外に強いあこがれを抱かれ、北海道で仕事をされ、資金を蓄えて単独で、海外視察に行かれ、様々な体験をし、日本戻られました。その後、家族と共にブラジルに移住されました。ブラジルで建築会社を興され、ブラジルに骨を埋める覚悟でしたが、先代住職のお父様、弟さんがお亡くなりになり、急遽ブラジルより帰国され、興徳寺の住職としてお釈迦様、日蓮様にお仕えされています。さらに、柚野の里山を美しくし、保護する活動をされています。

川施餓鬼法要は、若獅子神社の御霊祭の翌日でしたので、若獅子神社の英霊並びに、先の大戦で、亡くなられた方々が成仏されますようにと、祈念させていただき、松明行列において、最前列で大たいまつを抱え、松明行列の先陣を取らせていただきました。

現在、私たちが、平和に過ごすことができるのは、やはり、先の大戦でお亡くなりになられた方々がおり、その犠牲の上に、わたくしたちがあることを忘れてはならないと思います。そして、先の大戦での様々な事柄を途切れさせず、継承していくことが、私たちの行わなければならない大切な行動だと思います。日本人としての誇りと、真に国を想う気持ちを持ちを養うためにも今こそ、家庭や地域や、学校において真の道德教育を実践していくことが、必要だと思います。



若獅子神社の清掃状況



富士教育訓練センター内の青年隊記念碑の清掃状況



若獅子の塔の由来文



若獅子神社の由来文



帰還戦車の由来文



帰還戦車の由来文



若獅子神社



若獅子の塔



出征の寄せ書き



激戦地サイパンよりの帰還戦車



松永泰然住職による読経



川施餓鬼の松明納め